

令和 8 年度自己評価表 （当初）

	中期経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標	実績値	目標値	評価 (自己評価の結果)	改善策
					令和 7 年度	令和 8 年度		
確 かな 学 力	他者と協働し、主体的に学び続ける。	学力の向上	○「学びの基盤づくり」で学習の土台を固める。 朝学習・ぐんぐんタイムの充実 (音読、暗唱、漢字、計算等の習熟) ○語彙力、文章の読み取りの力を高める。 読書活動の充実 (読書タイム、読書ボランティア、週末読書等)	〈新〉○江田島市学力調査達成率との比較 目標値達成率7 0 %以上 目標値達成者数÷受験者数×1 0 0 〈新〉○単元テストの平均7 5 %以上の児童の割合 7 0 %以上 国語 読解力 (思考・判断・表現) 国語 言葉、漢字 (知識・技能) 算数 (思・判・表) 算数 (知・技) 〈新〉○年間 40 冊以上本を読んだ児童8 5 %以上	—	〈新規〉 国 7 0 以上 算 7 0 以上 国 (思) 7 0 % 国 (知) 7 0 % 算 (思) 7 0 % 算 (知) 7 0 % 〈新規〉 40 冊以上読書した児童8 5 %以上		
			○算数科チーム、国語科チームによる授業改善 ・自学と協働的な学びを組み合わせた授業づくりに取り組む。 ・児童が見通しをもって学習を進められるように、学び方や学びの進み具合についての振り返りを授業に位置付ける。	①自律的な学習意欲 (動機づけ) に関する意識調査 (4 年以上) (2 回: 4 月と 1 月) ② 学習調整行動 (見通し・協働・自律) についての意識調査 (3 年以上) (2 回: 4 月と 1 月)	①同一化的調整 (価値・重要性) 11. 02→10. 8 ②見通し項目 3. 22→2. 78 協働項目 (3) 3. 30→3. 03 自律項目 (9) 3. 40→3. 01 ③見取りと働きかけ 4. 13	①同一化的調整 10. 0 以上 (昨年度を維持) ②全ての項目 3. 0 以上 (昨年度を維持・上昇)		
豊 かな 心	自らを律し、他人を思いやり、夢や目標に挑戦する。	社会性の育成 ＊規範意識の高揚とルールへの定着	○学校全体の取組を徹底する。 (あいさつ、黙って掃除、身の回りの整頓) ・教職員が児童の手本となる。 ・学校生活の課題を基に児童自身に月ごとの生活目標を設定させ、自己評価させる。 ・全職員で随時、全児童の評価を行う。	○教師と児童の見取りによる達成率 あいさつ、返事 黙って掃除・身の回りの整頓	92. 2 % 90. 6 %	90 % 90 %		
		自己肯定感の育成 ＊自己有用感・自己効力感の向上	○体験的な学び (さとうみ学習等) を通して、児童一人一人を尊重し、自己有用感、自己効力感の向上を図る。 ・教師が児童と関わり、細やかによさを認め、言語化する。 ・他者評価により自信をもたせる取組。「自分が他者に必要とされている」 ・日々の授業で小さな達成感や成功体験を味わわせる。「自分ならできる」	○自己有用感に関する 児童の肯定的評価の割合 (アンケート) ○自己効力感に関する 児童の肯定的評価の割合 (アンケート)	83. 5 % —	85 % 〈新規〉 85 %		
健 や かな 体	自己管理能力を高め、主体的に自らの健康や体力の向上を図る。	健康で自律した生活習慣の育成	○学活・保健朝会・ミニ保健指導において、メディアコントロールを中心とした保健指導を5 回以上実施し、規則正しい生活リズムの定着を図る。 ○年3 回生活リズムチェックを実施し、課題のある児童の個別指導を行う。	○生活リズムチェックにおける「メディアコントロール」項目の合計達成率8 0 %以上を目指す。年間3 回実施し、生活リズムウィークを通して、1 学期8 4 %、2 学期8 5 %、3 学期8 6 %。	1 学期 83. 4 % 2 学期 86. 3 % 3 学期 83. 8 %	1 学期 8 5 % 2 学期 8 5 % 3 学期 8 5 %		
		体力・運動能力の向上	○体力の向上をめざし、ドリル運動等を組み込んだ授業改善、外遊び及び全学年の体力向上運動の充実を図る。	○反復横跳びにおいて、体力・運動能力調査の全国平均を上回る児童の割合。 ○2 分間走において、各学年で設定した目標値達成の割合 (4 月のタイムから、1 年かけて-8 秒縮められたら目標達成)	7 3 % 達成した学年数 1 学年	7 5 % 達成した学年数 3 学年		
地 域 と 共 に あ る 学 校	積極的に情報を発信し、地域・保護者との連携を図る。	学校運営協議会の効果的運用	○学校運営に参画する視点の持てる協議を通して、地域とともにある学校づくりを進める。 ○運営委員の方を通じて、地域の方との繋がりを、学校に関わってもらえる人を増やす。	〈新〉○地域、保護者、外部講師など、学校の教員以外の人々が、校内で活動、参観、打合せをしている日数。	—	〈新規〉 年間 70 日以上		
		さとうみ学習や地域学習の推進	○外部講師等と連携した学習環境を増やす。 ○さとうみ学習や地域学習など、他教科との横断的な学びを展開させる。	〈新〉○さとうみ学習等の学びを充実させ、教科等に生かすことができたと肯定的に評価する教員の割合。 〈新〉○「自分の住んでいる地域が好き」と回答する児童の割合。	—	〈新規〉 80 %以上 〈新規〉 90 %以上		